

## 関係者の声

勢多農林高校

栗原勇夫  
先生

農業を学ぶ高校生にアートを取り入れる試みは初めての体験であり、どのような繋がりができるか検討が付きませんでした。今回の「食」をテーマに農業とアートとのつながりを見つけ出せたと思います。高校生の発想はとても豊かで校内にある物を使用し、食べられるものをイメージすることは今後の農業学習にも役に立つのではないかと考えました。

勢多農林高校

筑井秀之  
先生

農業とアート、あまり接点がないと思っていたこの2つの分野。アーティストであるジルさんは、野菜や食品を学ぶ農業高校生にこの2つの分野を結びつけ、新たな可能性を開拓する魅力的な授業を行ってくれた。アートで重要な独創性、創造性、空想力。生徒達は、生き生きとした顔つきで、この授業のなかで一生懸命それらを駆使して新しいものを作ろうと頑張っていた。考えてみると、実は自然条件に左右され、農業者の一挙手一投足により収穫に違いのでくる野菜や草花などの栽培には、この独創性、創造性、空想力がとても重要になる。新しい食品を開発し、どう販売するかを考える食品にかかわる仕事に従事する者も同じである。授業終了後、生徒に聞くと、とても楽しい授業だった、また受けてみたいという感想だった。楽しい体験をしながら、将来、農や食に関連する仕事に就こうとする生徒達に一番本質的なことを学ばせていただいた。

月田小学校

大澤源  
校長先生

学校は色々な決まりや時間の中で動いたりするんですけど、そういったものをあまり意識しないで子ども達が亥士さんの即興演奏にのってきて。本当に自分の心の感じたままを出したりとか、いい体験が出来たかなと思います。

月田小学校

飯塚満枝  
先生

最初はちょっと不思議な楽器だから引いていたような感じだったんですけど、すごく音の世界に引き込まれていて、自由にのびのびと演奏していた。あんなに生き生きと楽器を叩くんだなんて見ていて嬉しかったです。とても楽しそうで、笑顔で作っていて、生き生きとしていて、どんどん「ああしたい、こうしたい」となっていました。

アーツ前橋  
担当学芸員

小田久美子

アーティストやクリエイターが得意なことは、この世界の姿を鋭いセンサーで察知して、音や身体の動き、造形的な形やアイデアにすることです。それらを通して、一見関係のなさそうなものや人をつなげたりすることで、新たな価値を生み出します。「答えは一人ひとり違うアート」と出会うことは、多様化しすぐに全体像が捉えられない社会の中を泳ぐのに必要な、「ものの見方」、「想像力」、「表現力」、「他者理解」という基礎体力を鍛えるレッスンです。

◎ 今回の活動の様子は、映像でも配信しています ◎  
アーツ前橋の公式youtubeチャンネルで、当日の様子を映像で見ることができます。

アーツ前橋 アーティストインスクール youtube で 検索!



## 先生方へ

今回のようなアーティストの他に、陶芸家、染色家、木工作家、画家、彫刻家、写真家、グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナー、ファッションデザイナー、インテリアデザイナー、イラストレーター、漫画家、音楽家、作曲家、パフォーマー、ダンサー、振付家、俳優、舞台制作、劇作家、映像作家、プログラマー、フードデザイナー、建築家、詩人など、様々なプロをコーディネートし学校へ派遣することができます。プロの発想や技術を授業づくりに活かしたり、キャリア学習、卒業制作など、内容や時間数を先生方と相談しながらプログラムを計画します。

アーツ前橋  
ARTS MAEBASHI

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16 TEL 027-230-1144 FAX 027-232-2016

http://www.artsmaebashi.jp/

主催：アーツ前橋 撮影：木暮伸也 \*本事業は宝くじの助成金で実施いたしました。



平成28年度

# アーティストインスクール

パイロット事業 報告



ジル・スタツサール (アーティスト、料理人) ×  
群馬県立勢多農林高校 (農業部9名・フードビジネスコース4名)



石坂亥士 (神楽太鼓奏者) ×  
前橋市立月田小学校 (2年生11名)

## アーティストインスクールとは?

アーティストやクリエイターが前橋市内の学校へ出向き、ワークショップや授業を行います。将来の地域や文化を担う子どもたちとアーティストが協働で学び、創造力/想像力、コミュニケーション力や表現力を身に付けます。美術や図工だけでなく他教科や他分野とも連携しながら行う、アーツ前橋初の試みです。今年度は、パイロット事業として2つの協力校で実施しました。

# ジル・スタッサール×群馬県立勢多農林高校

(アーティスト、料理人)

(農業部9名・フードビジネスコース4名)

日時: 1/11 (水) 13:30~15:20の2コマ  
場所: 群馬県立勢多農林高校 視聴覚室  
ゲスト: 岩田紀子 (農カフェ) 通訳: 海老原周子

アーティストの活動を紹介するトークとワークショップを実施。3~4人のグループに分かれて、学校内で見つけた3つの道具と材料を使って、紙の上で料理をする(レシピを考える)活動を行いました。



オリジナルサンドイッチで使用していたルッコラ※についてのお礼をジルさんが述べた後、これまで制作した作品の中から世界で一番大きな綿あめやケーキを制作した様子と、熱したアスファルトの中に包んだ素材を入れて調理をしたプロジェクトを映像で鑑賞。ジルさんが大切にしているのは、素晴らしい・美しい・馬鹿げたアイデア…どんなものでも、想像力を使って「実現する」ということ。それを踏まえて、今日は…

- 1) 校内で見つけた3つの道具や材料で料理する
  - 2) 必ず食べられるものにする
- このルールのもとに、レシピを考え、紙の上で想像上の料理をします。

※アーツ前橋の食をテーマにした企画展(2016/10/21-2017/1/17)の会期中に、食べられるアート作品としてジルさんが企画したオリジナルサンドイッチをアーツ前橋のカフェで提供。サンドイッチのために特別に生産した物もあり、ゲストの岩田さんを含めた県内の7つの生産者が協力。勢多農林高校の野菜部が生産したルッコラも使用しました。また、12月12日に農業部の学生は来館して、展示会を鑑賞しました。



## 1 アーティストとの出会い・活動の説明 どんなアイデアでも実現することが大事

## 2 材料と道具探し 校内へショッピング

各グループにアーティストやゲスト、スタッフと一緒にグループごとに校内を散策。高校内には畑やビニールハウス、農業の機械や道具など様々なものがあります。畑では野菜も育てていますが、今日は道端のたんぼほや葉牡丹、鳩にも注目。マンホールやパイプ椅子を鉄板に、盛り付けを鉢に、木や石も燃料に…見慣れた校内ですが普段とは違う目線と想像力で歩きます。



## 3 レシピを考える いざ紙の上でクッキング!

教室に戻り、見つけてきた道具や材料を3つに絞りながら、レシピを考えます。話が行き詰まるとジルさんがやってきて、幅広い料理の知識をもとに真剣にアドバイス。それに生徒たちも刺激されて、実現可能なものへと、より一歩踏み込んで考えていきます。

## 4 レシピを発表 個性豊かなレシピが誕生

各班で考えたレシピを発表します。ジルさんからもより実現可能になるようにコメントがなされました。ぜひ、実際に調理してみたいとの言葉をもってこのワークショップは終了しました。



アーティストから

すごくオープンで発想も豊かな子たちだと思いました。学校の外の人と関係を持つことは、とてもいい機会だと思います。何かを創造するプロセスと一緒に、最初にイメージをし、それを実現していくことが大切です。

# 石坂亥士×前橋市立月田小学校

(神楽太鼓奏者)

(2年生11名)

日時: 1/19 (木) と1/26 (木)  
10:45~12:20の合計4コマ  
場所: 前橋市立月田小学校 体育館、図工室

2年生の楽器を作る既存の図工の題材「ときめきコンサート」に、アーティストが参加。世界各国の楽器に触れて体験することから発想を広げ、身近な材料でオリジナルの楽器を創作。最後は、作った楽器で即興ライブ(演奏会)を行いました。



## 1 アーティストとの出会い 音の洪水!!

体育館に並ぶ珍しい楽器たち。亀の甲羅でできた楽器を叩きながら、子どもたちの後方から現れる亥士さんにみんな興味津々。一通り他の楽器も音を聞いたりしたあと、今度は子どもたちも自由に触って体験しました。最後は冬の寒さも忘れ、体育館は音の洪水で満たされました。この回は学校のご協力で、1、3、4年生と、関心のある保護者の方も参加しました。

## 2 構想と制作 どんな楽器にしよう?

図工室に戻った2年生へ「楽器を作ろう」と誘う亥士さん。太鼓の音は太鼓の胴の中をぐるぐる螺旋を描いて外へ出て行くということ、螺旋を描くととても早く届くということなどを太鼓の後ろから出る空気を感じたり、図示したり、水を使って実演。そんな音のイメージも意識して、亥士さんの持ってきた楽器も見ながら、作ってみたい楽器をまずは紙に描きだしてみます。そのあとは家から持ってきたり学校で準備したりした材料のもとに、手を動かして少しずつ形にします。



## 3 制作の続き どんどん作りたい!!

2日目は、前日の楽器作りの続きです。1日目との間にも制作を進めていたようで、2個も3個も作っている子どもたちも。飾り付けをしたり、補強したり仕上げの作業です。



## 4 発表 いよいよ即興演奏会

保護者の方も何人か見に来ました。まずは作った楽器の音を1つひとつを確認します。小さな音からダイナミックな音まで様々な音ができました。最後は亥士さんの合図で、子どもも体を動かして、教室中をぐるぐる回りながら即興演奏会。月田小楽団が誕生しました!

アーティストから

小さい音でもいい音はいい音だし、それぞれを肯定していくことがすごく大事なんじゃないかなと思います。学校の授業の一環だけど、満足するまでやるとか、そういうことかもしれない。この時間までにやらなきゃいけないことも多いけど、そうじゃないところに出てくる音もあるんですよ。特に即興とかはわからない。なので、普通の先生はやらないやり方を、(アーティストとしてやる)ということかもしれないです。

